



2016年度 競技規則運用についての通達

2016年7月1日

(公財) 日本ハンドボール協会競技運営委員会
審判委員会

2016年6月27日付、「2016年度 競技規則変更の概要 新競技規則書を受けて」の内容を受け、(公財) 日本ハンドボール協会では下記の通り競技規則の運用について通達する。

記

競技規則変更の概要「2 選手が負傷した場合」の条文の中に記載されている、「各国協会はユースの категорияにおいて、この条項の適用を取り消すことができる。」の記載を受け、**(公財) 日本ハンドボール協会では、高校生、中学生、小学生の категорияにおいて、この条項の適用を取り消す**こととする。

つまり、これらの category においては、条文として、**「コート上で治療行為を受けたプレーヤーがコート外に出た場合、そのプレーヤーは、自チームの3回の攻撃完了や、ハーフタイム終了を待つことなく、コートに戻るることができる。」**を適用する。

ただし、この競技規則の運用については以下の点を含める。

○ **試合を円滑に進めるため、可能な限りコート上での治療行為の時間を減らすことを目的とすることには変わりない。**つまり、長時間にわたって治療を要する状況になった場合、レフェリーまたは TD はチームに対し、そのプレーヤーをコート外に出るように促すことができる。チームはこの指示に従わなければならない。

○ **あくまで国内での適用**であり、国際大会において競技規則変更の概要の通り適用されることもあり得る。

また IHF との確認の結果、「2 選手が負傷した場合」の中に下記の内容を追加する。上記を踏まえ、以下の内容は高校生、中学生、小学生の category では適用されない。

○ 延長戦も含め、前半・後半のそれぞれが終了すれば、3回の攻撃回数のカウントは終了する。つまり、前半が終了すれば、そのプレーヤーはそれまでの攻撃回数に関係なく 後半開始から コートに戻る事が許される。また、後半が終了し延長戦や 7 m スローコンテストへと競技が続く場合も同様であり、第1延長、第2延長、7 m スローコンテストの 開始時点から、そのプレーヤーはコートに戻る事が許される。